

寺ん寺



165号



【住吉っさんの反橋】

住吉大社は古来、海の神様、商売繁盛の神様として人気があり、正月三が日で二百万人が参詣する。正面の池の神橋は「反橋」（そりはし）若しくは「太鼓橋」と呼ばれる木橋で神社の象徴的存在である。最大傾斜は約48度、この橋を渡るだけで「お祓い」になるとも言われている。川端康成は作品「反橋」の中で、「反橋は上るよりもおりる方がこはい」と書いている。石造橋脚は慶長年間に淀君が奉納したものと伝わっている。（住吉大社HPによる）加藤 裕造（建設・総監）

目 次

[項 目]	[執筆者]	[頁]
表 紙 住吉っさんの反橋	加藤裕造	1
巻頭言 身近なところから「知名度向上」を	杉本哲雄	3
近畿本部 報告・予告		
理事会だより (H30-No. 4)	河野千代	4
平成 30 年度第 4 回役員会議事録 (案)	杉本哲雄	7
第 48 回日韓技術士国際会議 (兵庫・神戸)	萩原由起子	10
第 2 回新春講演会	事務局	11
第 12 回災害対策セミナー	事務局	12
第 4 回協賛団体特別セミナー	事務局	13
倫理シンポジウム 2019	事務局	14
部会/活動グループ 報告・予告		
近畿本部 ISO 研究会	竹内修治・村上禮三	15
近畿本部 化学部会	橋本隆幸	18
近畿本部 技術士業務研究会	三木茂男	20
近畿本部 繊維部会・化学部会・環境研究会	藤橋雅尚	22
近畿本部 上下水道部会	中村秀人	26
近畿本部 情報工学部会	佐藤 力・山口敦史	28
近畿本部 経営工学部会	村島繁延	30
近畿本部 農林水産部会	新保義剛・三嶋陽治	32
近畿本部 関西食品技術士センター	戸口昌俊・水道裕久	36
近畿本部 繊維部会・化学部会	城山義見	38
特集 海外での技術者像の体験談		
韓国で大学教授として	きんき編集室	39
中国「高級エンジニア」の概要	平野富夫	40
アメリカ駐在経験より、経営工学技術者を考察	外山榛一	42
	荒井一彦	44
連載コラム		
被子植物	妹尾一成	46
図書紹介		
動的平衡 3 チャンスは準備された心にもみ降り立つ	廣谷恭三	47
協賛団体特集		
編集室だより		
編集室員の募集	きんき編集室	8
みなさんの原稿大募集	きんき編集室	45
1-2 月行事予定	きんき編集室	56
編集後記	木藤 茂	56

身近なところから「知名度向上を」

近畿本部長 杉本 哲雄

皆様 明けましておめでとう御座います。

今年は、日本技術士会が創立されてから 68 周年となります。来る 2021 年には、日本技術士会が 70 周年を迎える事となります。人間でしたら成熟した大人と言えます。これから益々充実した日々を送る事に成るに違いありません。

ところが、技術士の皆さんと懇親会等が出る言葉として「技術士という名前は、知らない人が多い」、「知名度が低い」というボヤキの様な場面に出くわしたりします。私も、技術士資格を得て 20 数年経ちますが、「知名度が低い」という言葉を聞いて、その言葉を余り課題とも考えた事も無く過ぎて来ました。そうはいつでも、現在の若い技術士もその様なコンプレックスを心の奥に持っていると思うと居ても立っても居られない気持ちになりました。

勿論、平野輝美創造工学研究所長が述べておられる様に「知名度向上」の意義は、企業内技術士と職業技術士とは、意味合いが異なる。「前者では、有効性が有り、後者では、お客様に知って頂く事が重要であって、沢山の方に知って貰う事は意味がありません」と述べている。すなわち、B to C マーケティングではないという。私も同感し、闇雲に何が何でも「知名度向上」、「地位向上」をただ単に唱える心算はありません。

「技術士が、ノーベル賞を得るとか、何かの技術で画期的な世の為に成る事をするとかしないとか有名に成らないのでは?」と A 技術士が言います。また B 技術士は、「データ偽装問題とか、世の中で問題となっている様なところをセンセーショナルにシンポジウムを行えば、知名度が増すのではないか」と言います。私は、A 技術士や B 技術士の意見は、少し危険だと思います。といいますのは、よくよく私達は、知名度を得るために技術士に成ったのでは、なかった筈であります。技術を通じて世の中の人に役に立とう、高い技術を身に付けて相応しい収入を得よう、それで持って人からリスペクトを得たいという事ではありませんか。そんなリスペクトを得ながら業務量が増大すれば尚更いいね!ではありませんか。焦って、センセーショナルなシンポジウム等を行ってはならないと存じます。技術士シンポジウム等は、興行ではありません。

それであるならば、リスクを避け着実に「知名度向上」させるには、如何すれば良いか?これが本稿の主張したいところでもあります。私達、技術士の毎日の仕事や、会務の身近なところから昨日より今日、今日よりも明日に業務や会務をレベルアップさせる事が肝要です。例えば、日本技術士会の業務の一つに、技術士試験があります。7月に、第二次筆記試験、10月には、第一次試験があります。近畿本部でも、4月から10月の試験終了まで準備・実施で多忙です。試験監督を首尾良く終了する事が当然の世界ですが、試験会場選び、本部員選び、主任監督員選び、ネクサ社との連携等々の過程で如何にレベルアップを図るか。試験業務支援委員会が出た案で、監督員予定者に対する事前研修会の実施、試験実施後の反省会の実施です。今や試験業務にPDCAを導入してレベルアップを上げつつあります。試験以外でも、産学官セミナー、西日本業績発表会等があり、絶えずレベルアップを図るように改善しているところでもあります。

読者の皆様も、委員会、部会、登録研究会で何か行事を企画する事があろうかと存じますが、是非、この様な企画行事を行う場合は、PDCAを導入して、向上を図って欲しいと存じます。身近なところからコツコツと行う事が「知名度向上」に繋がると信じています。